

家畜飼養学特論 (2単位)

担当者氏名 祐森誠司・谷口信和

◆学習・教育目標

動物が生命活動・生産活動を維持する上で必要とする栄養素は体内合成で賄いきれない、よってその必要量を飼料に依存して摂取する。要求される栄養素の種類・量は動物種・成長ステージにより異なることは周知であるが、それらの消化吸収は動物種によって消化器官の特徴があり、異なる。さらに、生産業として捉えた場合の経営方式は状況に応じて変化する。よって、飼料の性質と栄養素の摂取および消化吸収、さらには経営経済的規程要因について教授する。具体的な内容のひとつとして各学生が対象とする実験動物等を事例として考え、理解を深める。なお、テーマにそったフリーディスカッションを主とした方式で行う。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
第1週	家畜栄養概論	栄養素の提供源と要求量の関係	各種栄養素の必須性、理想的な栄養供給
第2～4週	試験供試動物の栄養状況	データ採取の絶対条件となる栄養状況	試験報告(論文)作成時の条件として今後強く求められる可能性
第5～7週	微量栄養素の管理	成長ステージと微量栄養素について	微粒栄養素の過不足による問題と最近の栄養供給事情
第7～10週	飼養管理	畜種別・畜の飼養管理	家畜の飼養管理の多様性と規程要因
第11～15週	飼料構造	飼料の調達(生産・調整・購入)・給与と経営的評価	飼料構造の実態と経営的評価

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)
適宜、資料を配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)
畜産経営学/島津 正他編著/文永堂 (1984)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

随時、レポート提出を求め、評価する

◆その他受講上の注意事項